

**【12頁, 10行目】**

(誤) さまざまな流儀

(正) さまざまな流儀

**【57頁, 定理 4.1.1 (健全性定理) の文面 3行目】**

(誤)  $\varphi, \psi_1, \psi_2, \dots, \psi_n$  中に自由出現しない

(正)  $\mathcal{A}$  中に出現しない

現状でも定理の主張は誤りではないが, 証明に不備がある (たとえば  $[\rightarrow$  除去] の場合に  $x_1, \dots, x_k$  以外の変数記号が  $\rho$  中に自由出現する可能性を考慮していない). 証明を変えてもよいが, この場合は定理の文面を変える方が適切である.

**【69-70頁, 定理 5.2.1 を用いた定理 5.1.7 の証明中の (ア) と (ウ) の証明】**

現状でも誤りではない. しかし次の事実を示してそれを用いて証明する方が簡潔である: 任意の閉論理式  $\varphi$  について  $\varphi \vdash \varphi^\#$  かつ  $\varphi^\# \vdash \varphi$ .

**【95頁, 下から 7行目, 定理 6.5.1 の副題】**

(誤) Basic の無矛盾拡大集合の計算不可能性

(正) Basic の無矛盾拡大からの導出可能性判定の計算不可能性

**【118頁, 8.2節 2行目】**

(誤) 「ヒルベルト流」よばれる

(正) 「ヒルベルト流」とよばれる

**【151頁, 6行目】**

(誤) 条件 (1)~(4) が

(正) 条件 (1)~(3) が

**【154頁, 本文 2行目, 2箇所】**

(誤) という形の論理式は

(正) という部分は

**【159 頁, 定義 11.1.3 の (2)】**

(誤)  $\dots$  が  $\text{Dom}(\mathcal{W}_i)$  の要素の名前のとき,

(正)  $\dots$  が  $\text{Dom}(\mathcal{W}_i)$  の要素 (の名前) のとき,

**【162 頁, 定理 11.2.1 の証明の 3 行目】**

(「 $A$  の結論を  $(\psi_1, \psi_2, \dots, \psi_n \Rightarrow \varphi)$  とし」の後に次を追加)

(ただし右辺が空の場合は以降の  $\varphi$  を  $\perp$  に読み替える)

**【162 頁, 定理 11.2.1 の証明の 4 行目】**

(誤)  $\varphi, \psi_1, \psi_2, \dots, \psi_n$  中に自由出現しない

(正)  $A$  中に出現しない

先述の「57 頁, 定理 4.1.1 (健全性定理) の文面 3 行目」の訂正と同じような状況である.

**【165 頁および 177 頁, ダイアグラムの根の左側】**

(誤)  $\varphi_1, \varphi_2, \dots, \varphi_m$

(正)  $\varphi_1, \varphi_2, \dots, \varphi_m$

**【171 頁, 9 行目】**

(誤)  $\dots y$  は  $\mathcal{T}_i$  に出現しない...

(正)  $\dots y$  は追加前のダイアグラムに出現しない...

**【171 頁, 下から 6 行目】**

(誤) 以上が  $\mathcal{T}_i$  から  $\mathcal{T}_{i+1}$  の作り方であり, このようにしてできる列  $\mathcal{T}_0, \mathcal{T}_1, \mathcal{T}_2, \dots$  の「極限」である無限和  $\bigcup_{i=0}^{\infty} \mathcal{T}_i$  が求める飽和整合ダイアグラムになる.

(正) 以上の追加作業を  $\mathcal{T}_i$  上のすべての印に対して施した結果が  $\mathcal{T}_{i+1}$  であり, こうしてできる列  $\mathcal{T}_0, \mathcal{T}_1, \mathcal{T}_2, \dots$  の累積  $\bigcup_{i=0}^{\infty} \mathcal{T}_i$  が求める飽和整合ダイアグラムになる.